

総務常任委員会

災害時に備え市議会防災訓練を実施

1月30日、東日本大震災を教訓に策定した災害行動マニュアルに基づき、防災訓練を実施しました。この訓練は今年度で3回目となり、今後発生が懸念される大地震等の災害において、市災害対策本部と連携し、災害対策活動を支援するとともに、被災者と情報共有・連携・相談等を行う体制整備を目的としています。訓練では、電話連絡等による議員の安否確認後、議長が設置する市議会災害対策会議へ参集し、地区ごとの災害状況の報告や情報の収集・整理を行い、市当局へ取りまとめた情報を提供しました。また、消防署員を講師とした救命講習や、移動系防災行政無線の操作方法を学びました。

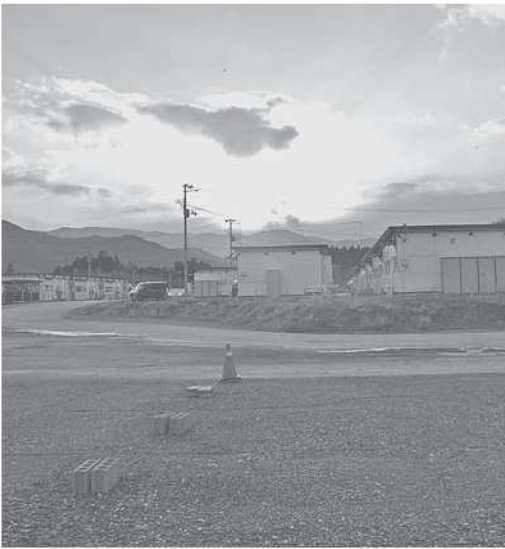


教育福祉常任委員会

応急仮設住宅支援協議会と意見交換

2月3日、大船渡市の復興過程における支援員の役割の現状や今後のあり方について、大船渡市応急仮設住宅支援協議会の事務局職員の方々と意見交換を行いました。応急仮設住宅については、意向未確定者の状況や入居者の経済・健康問題などについて、災害公営住宅については、市営と県営での手続きや管理運営の違い、コミュニケーションづくりの支援体制などについて理解を深めました。

他にも、みなし仮設住宅の支援状況や個人情報への取り扱い、自力再建した方々への支援、仙台市の事例を参考にした取組、フアインシャルプランナーの無料相談などについて意見を交わしました。



産業建設常任委員会

越喜来漁協、建設業協会と意見交換

1月17日、越喜来漁業協同組合を訪問し、東日本大震災からの復旧・復興状況や漁業の担い手対策等について意見交換を行いました。秋サケの不漁による厳しい現状や担い手不足の現状を改めて認識し、市外からの漁業従事者獲得のための補助制度などについても意見を交わしました。

また、2月9日、一般社団法人岩手県建設業協会大船渡支部を訪問し、市内公共工事の現状や課題、復旧・復興状況等について意見交換を行いました。このほか復興需要後の将来の見通しや人材不足などの課題のほか、内陸とのアクセス整備、港湾、ILCの誘致なども話題にのぼり意見を交わしました。



復興特別委員会

復興施策に対し提言書を市に提出

2月28日、議長と復興特別委員会（議長を除く議員19名で構成）の幹事5名が、市長に第1次提言書を提出しました。4月の改選後に設置された復興特別委員会では初めての、市議会としては震災直後から通算8回目の提出となり、今回は3分野41項目の提言となっています。復興特別委員会では、これまで提言書を取りまとめるため、総務、教育福祉及び産業建設の3部会に分かれて、被災者や団体と意見交換を行うなど調査研究に取り組んできました。



市政調査会

未来かなえネットの取組について研修

(2月8日)



一般社団法人未来かなえ機構 理事 安部博氏を講師に、地域の医療・介護・福祉を結ぶICT地域医療情報連携システムについて研修しました。

同機構は、平成23年に国から選定された気仙広域環境未来都市構想に基づき医療・介護・福祉の連携を目指して、平成27年4月に設立され、平成28年4月よりシステムの運用が開始されました。

このシステムは、気仙地域の病院、薬局、介護事業所、行政の間をインターネットで結び、住民の皆さんの病気、お薬、検査結果などの情報を共有します。

これにより、

- ▶別の診療所などでの治療や薬の状況を説明する面倒が少なくなる
- ▶施設を移るたびに同じ検査を繰り返したり、同じ薬を重複することが少なくなる
- ▶災害時に情報を残すことができ治療・介護が継続しやすい

など、より安全で質の高い医療・介護・健康サービスを受けられるようにするものです。

気仙独自のシステムによる取組は、国内での先駆的なモデルになるものとして注目を集めているようです。

3月27日現在、8,130人の登録者があり、行政でも多くの住民の皆様の登録を呼びかけています。

完成した湾口防波堤を視察

(3月17日)

湾口防波堤は、東日本大震災の大津波で倒壊しましたが、津波襲来時に浸水域の低減や津波到達時間の遅延など一定の津波減災効果を発揮したと考えられます。平成24年から復旧工事が進められてきましたが、着工から5年を経てこのたび完成したことから視察を行いました。新たな防波堤は、総事業費250億円。海面からの高さは震災前の倍以上となる11.3m。港内側の基礎マウンドをかさ上げし、かさ上げ箇所をブロックで覆い、基礎マウンドの洗掘を防止する粘り強い構造となっています。この湾口防波堤と防潮堤等との効果的な組み合わせにより、港内へ侵入する津波流量・流速をカットし、港内の水位上昇を抑制することで多重的に港湾と市街地を防御します。

また、水質環境にも配慮し、防波堤両端の開口部を20m解放し、中央開口部の底には通水管も設けました。海水交換に一定の効果が確認されているとい

うことでした。

湾口防波堤の完成は、安心・安全な市民生活の大きな一歩であり、復興事業の一層の促進を図りたいものです。

